

# ロボット・テクノロジー関連株ファンド ーロボテックー (毎月決算／予想分配金提示型)

&lt;3419&gt;

追加型投信／内外／株式  
日経新聞掲載名：ロボテック毎月

第34期	2023年4月13日決算	第37期	2023年7月13日決算
第35期	2023年5月15日決算	第38期	2023年8月14日決算
第36期	2023年6月13日決算	第39期	2023年9月13日決算

## 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、日本を含む世界のロボット関連企業の株式に投資し、値上がり利益を追求することにより、信託財産の成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

第39期末	基準価額	10,375円
	純資産総額	1,382百万円
第34期～第39期	騰落率	13.8%
	分配金合計	600円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

## 大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社  
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号  
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

運用報告書に関するお問い合わせ先

 コールセンター 受付時間 9:00～17:00 (営業日のみ)  
0120-106212

お客様の口座内容に関するご照会は、  
お申し込みされた販売会社にお問い合わせください。

■当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供することを定めており、以下の手順で閲覧、ダウンロードいただけます。「運用報告書(全体版)」は受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社へお問い合わせください。

UD  
FONT

見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。

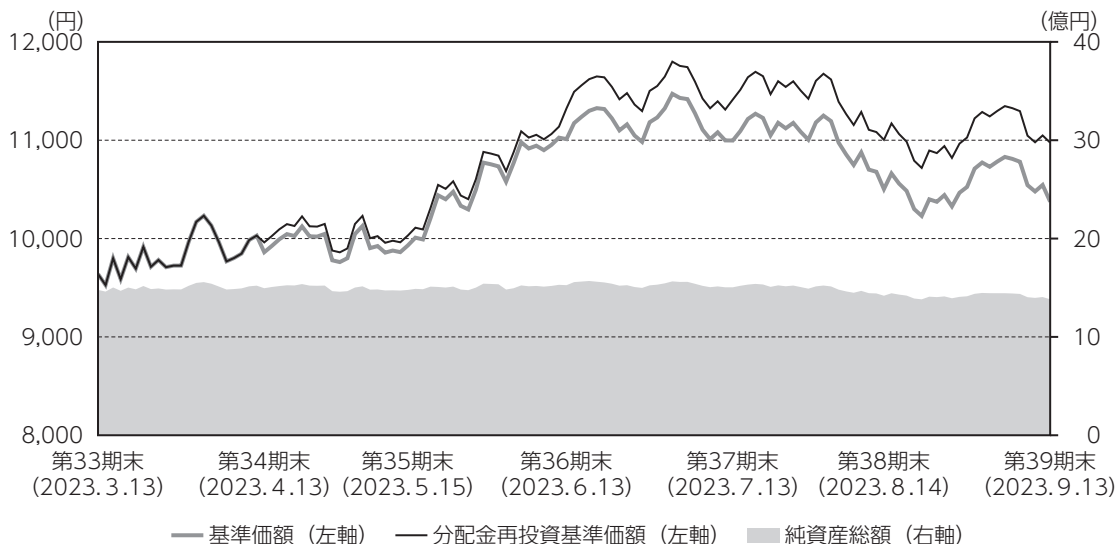
◇TKU0341920230913◇

「運用報告書(全体版)」の閲覧・ダウンロード方法  
上記のURLにアクセス → ファンド検索欄にファンド名を入力 → リストから当ファンドを選択 → 運用報告書(全体版)を選択



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

- \* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- \* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

### 基準価額・騰落率

第34期首： 9,640円

第39期末： 10,375円（既払分配金600円）

騰落率： 13.8%（分配金再投資ベース）

### 基準価額の主な変動要因

当作成期の基準価額は、グローバル株式市況の上昇や円安の進行がプラス要因となり、上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

## 1万口当りの費用の明細

項 目	第34期～第39期 (2023.3.14～2023.9.13)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	65円	0.621%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は10,532円です。
(投 信 会 社)	(20)	(0.193)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(44)	(0.414)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(1)	(0.013)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	－	－	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	－	－	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0.004	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	66	0.625	

(注1) 当作成期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

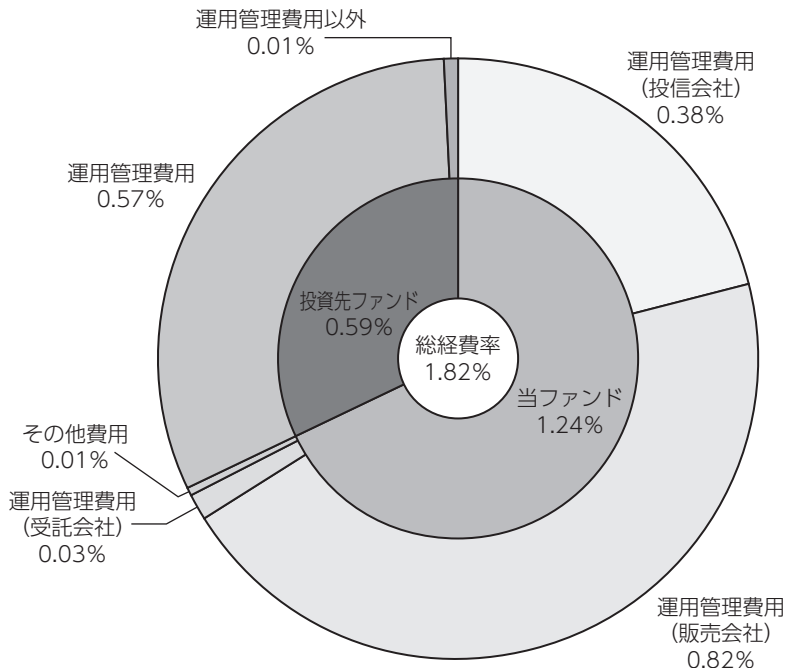
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

## 参考情報

### ■総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.82%です。



総経費率 (①+②+③)	1.82%
①当ファンドの費用の比率	1.24%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.57%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.01%

(注1) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 投資先ファンドにおいて、上記以外に含まれていない費用は認識しておりません。

(注4) 各比率は、年率換算した値です。

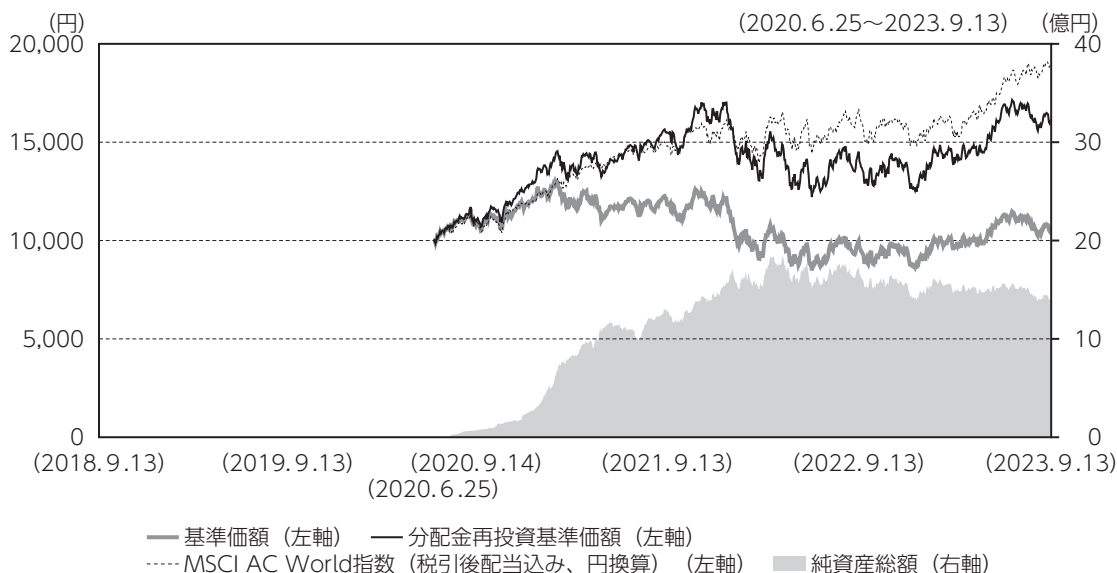
(注5) ①の費用は、1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注6) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注7) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移について



(注) 参考指数は、2020年6月25日を10,000として指数化したものです。

\*参考指数はMSCI AC World指数 (税引後配当込み、円換算) です。参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しております。

	2020年6月25日 設定	2020年9月14日 決算日	2021年9月13日 決算日	2022年9月13日 決算日	2023年9月13日 決算日
基準価額 (円)	10,000	10,767	11,841	9,991	10,375
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	200	3,000	1,200	600
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	9.7	41.3	△6.3	9.8
MSCI AC World指数 (税引後配当込み、円換算) 騰落率 (%)	—	8.1	37.0	12.8	13.3
純資産総額 (百万円)	1	69	1,266	1,725	1,382

(注1) 比率は小数点第1位未満を四捨五入してあります。

(注2) MSCI AC World指数 (税引後配当込み、円換算) は、MSCI Inc. (「MSCI」) の承諾を得て、MSCI AC World指数 (税引後配当込み、米ドルベース) をもとに大和アセットマネジメントが円換算したものです。MSCI AC World指数 (税引後配当込み、米ドルベース) は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。本ファンドは、MSCIによって保証、推奨、または宣伝されるものではなく、MSCIは本ファンドまたは本ファンドが基づいているインデックスに関していかなる責任も負いません。免責事項全文についてはこちらをご覧ください。 (<https://www.daiwa-am.co.jp/specialreport/globalmarket/notice.html>)

(注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

※参考指数を「MSCI AC World指数 (配当込み、円換算)」から「MSCI AC World指数 (税引後配当込み、円換算)」に変更しました。

## 投資環境について

(2023.3.14~2023.9.13)

### ■グローバル株式市況

グローバル株式市況は上昇しました。

グローバル株式市況は、当作成期首より、米国の地方銀行の経営破綻に対して、F R B（米国連邦準備制度理事会）が緊急融資枠の新設したことで資金繰り懸念が後退し、米国の成長株を中心に上昇しました。2023年4月からは、米国の地方銀行の経営不安や債務上限問題への懸念が上値を抑えた一方、予想を上回る企業決算の発表が好感され、横ばいでの推移が続きましたが、5月下旬以降は、A I（人工知能）関連で使用される半導体メーカーの強気見通しや債務上限問題の解決、インフレ率の鈍化などが好感されて大幅に上昇しました。8月以降は、長期金利が上昇したことやF R B高官発言への警戒感の高まりなどから、上値の重い展開となりました。

### ■為替相場（米ドル／円、ユーロ／円）

米ドル円相場は上昇（円安）しました。

米ドル対円為替相場は、当作成期首より2023年6月にかけては、米国における金融不安の後退や、堅調な経済指標などを背景に米国金利が上昇したことで、円安米ドル高が進みました。7月半ばにかけては、米国のインフレ指標の鈍化を受けて、円高米ドル安になりましたが、当作成期末にかけては、堅調な経済指標を背景に米国の利上げ継続観測が再燃したことなどから、円安米ドル高基調が続きました。  
ユーロ円相場は上昇（円安）しました。

ユーロ対円為替相場は、当作成期首より2023年6月にかけては、E C B（欧州中央銀行）が利上げ継続を示唆し、日欧の金利差が拡大したことを受けて円安ユーロ高となりました。7月に入ると、ユーロ圏の利上げ見通しが低下しユーロが売られたことや、日銀の政策修正期待を背景に円が買われたことなどを受け、円高ユーロ安になりました。8月に入り、E C B高官が利上げの継続を示唆する一方で、日銀は将来のインフレが目標を下回る見通しであることを理由に緩和姿勢の継続を示したことなどを受け、円安ユーロ高となりました。

## 前作成期末における「今後の運用方針」

### ■当ファンド

ロボット関連株ファンド（為替ヘッジなし）の組入比率を、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。

※ロボット関連株ファンド（為替ヘッジなし）：アクサ I M・グローバル・ロボット関連株ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）

## ■ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジなし)

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場のさまざまなロボット関連産業の企業に投資を行います。「作る」では、ロボット産業におけるリーディングカンパニーに加え、製造工程を監視制御するシステムを開発する企業などに注目しています。「運ぶ」では、自動運転の実現を可能とするソフトウェアや半導体企業に注目しています。「助ける・守る」では、ロボット外科手術などを手掛ける企業などに注目しています。

当ファンドで注目する長期的な成長テーマとその投資機会は、引き続き強固であると考えています。今後も、実績の高い事業モデルを有し、大きなビジネスチャンスがあり、経営が強固な企業を選別することに注力していく方針です。

## ■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

## ポートフォリオについて

(2023.3.14~2023.9.13)

### ■当ファンド

当ファンドは、「ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジなし)」と「ダイワ・マネースtock・マザーファンド」へ投資するファンド・オブ・ファンズです。当作成期を通じて、「ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジなし)」を高位に組み入れました。

### ■ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジなし)

当ファンドは、「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場のさまざまなロボット関連産業の企業に投資を行い、信託財産の成長をめざしました。企業規模の面ではアマゾン・ドット・コムやキーエンスのような大型株からシリコン・ラボラトリーズやグローバス・メディカルなどの中小型株にも幅広く投資しました。地域別ではロボット関連産業の技術革新において先進的な地域である米国、日本を中心に投資しました。

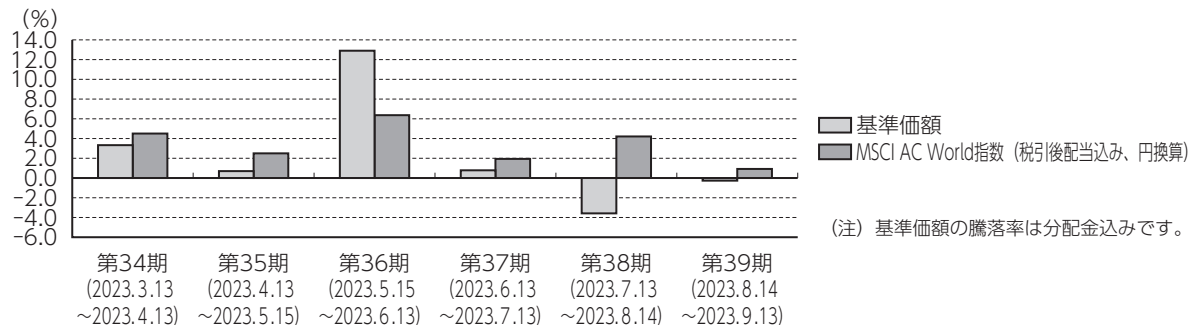
当作成期は、溶接などの自動化ソリューションを提供する米国のリンカーン・エレクトリック・ホールディングズや半導体製造用機器などを提供している米国のアプライド・マテリアルズを新規に組み入れました。一方で、倉庫自動化の需要が一時的に減速する可能性を考慮して米国のコグネックスを一部売却しました。

### ■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、コール・ローン等による運用を行いました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。  
以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



## 分配金について

当作成期の1万口当り分配金(税込み)は下記「分配原資の内訳(1万口当り)」の「当期分配金(税込み)」欄をご参照ください。第35期は、分配方針通り、収益分配を見送らせていただきました。収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程(1万口当り)」をご参照ください。なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### ■ 分配原資の内訳 (1万口当り)

項 目	第34期	第35期	第36期	第37期	第38期	第39期
	2023年3月14日 ~2023年4月13日	2023年4月14日 ~2023年5月15日	2023年5月16日 ~2023年6月13日	2023年6月14日 ~2023年7月13日	2023年7月14日 ~2023年8月14日	2023年8月15日 ~2023年9月13日
<b>当期分配金(税込み) (円)</b>	<b>100</b>	<b>—</b>	<b>200</b>	<b>100</b>	<b>100</b>	<b>100</b>
対基準価額比率 (%)	1.00	—	1.78	0.90	0.94	0.95
当期の収益 (円)	—	—	200	81	—	—
当期の収益以外 (円)	100	—	—	18	100	100
翌期繰越分配対象額 (円)	1,324	1,324	1,592	1,573	1,473	1,373

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税込み)に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

(注4) 投資信託の計理上、「翌期繰越分配対象額」は当該決算期末時点の基準価額を上回る場合がありますが、実際には基準価額を超える額の分配金をお支払いすることはありません。



## ■収益分配金の計算過程 (1万口当り)

項 目	第34期	第35期	第36期	第37期	第38期	第39期
(a) 経費控除後の配当等収益	0.00円	0.00円	0.00円	0.00円	0.00円	0.00円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0.00	0.00	✓ 467.54	✓ 81.65	0.00	0.00
(c) 収益調整金	✓ 1,424.51	1,324.51	1,324.51	1,330.73	1,333.37	1,335.45
(d) 分配準備積立金	0.00	0.00	0.00	✓ 261.32	✓ 240.33	✓ 138.26
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)	1,424.51	1,324.51	1,792.05	1,673.71	1,573.71	1,473.71
(f) 分配金	100.00	0.00	200.00	100.00	100.00	100.00
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)	1,324.51	1,324.51	1,592.05	1,573.71	1,473.71	1,373.71

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



## 今後の運用方針

### ■当ファンド

「ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジなし)」の組入比率を、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。

### ■ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジなし)

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場のさまざまなロボット関連産業の企業に投資を行います。「作る」では、ロボット産業におけるリーディングカンパニーに加え、製造工程を監視制御するシステムを開発する企業などに注目しています。「運ぶ」では、自動運転の実現を可能とするソフトウェアや半導体企業に注目しています。「助ける・守る」では、ロボット外科手術などを手掛ける企業などに注目しています。

米国を中心に労働市場はひっ迫した状態が続いており、労働力不足と労働コストの上昇は向こう数年にわたって自動化需要の大きな原動力になると考えています。企業にとって、効率性や生産性を向上させるためにテクノロジーを導入し、プロセスを自動化させる必要性が高まっています。労働コストの上昇は、企業の自動化導入の費用対効果を高めることになるため、より多くの分野で自動化が検討されると考えられます。今後も、将来的な成長期待の高いロボット関連産業の企業に投資を行うことで中長期的な信託財産の成長をめざしてまいります。

### ■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。



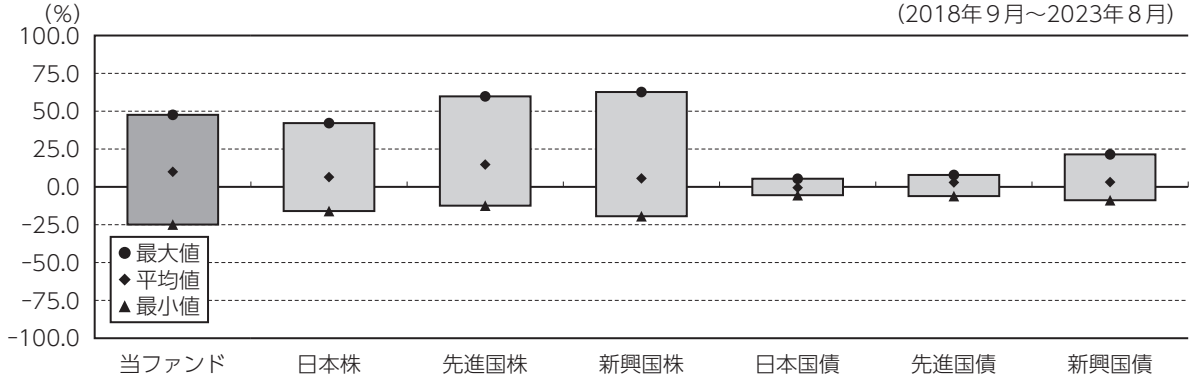
## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	2020年6月25日～2025年9月12日	
運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	当ファンド	イ. アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジなし) (適格機関投資家専用) (以下「ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジなし)」といいます。) の受益証券 ロ. ダイワ・マネーストック・マザーファンドの受益証券
	ダイワ・マネーストック・マザーファンド	円建ての債券
当ファンドの運用方法	<p>①主として、ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジなし) の受益証券を通じて、日本を含む世界のロボット関連企業の株式 (DR (預託証券) を含みます。) に投資し、値上がり益を追求することにより、信託財産の成長をめざして運用を行ないます。</p> <p>②当ファンドは、ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジなし) とダイワ・マネーストック・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。通常の状態、ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジなし) への投資割合を高位に維持することを基本とします。</p> <p>③ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジなし) では、為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。</p>	
マザーファンドの運用方法	<p>①円建ての債券を中心に投資し、安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。</p> <p>②円建資産への投資にあたっては、残存期間が1年未満、取得時においてA-2格相当以上の債券およびコマーシャル・ペーパーに投資することを基本とします。</p>	
分配方針	<p>分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益 (評価益を含みます。) 等とし、当初設定から1年以内に分配を開始し、分配開始後は、下記イ. およびロ. に基づき分配します。</p> <p>イ. 計算期末の前営業日の基準価額 (1万円当り。既払分配金を加算しません。以下同じ。) が10,000円未満の場合、原則として、分配を行ないません。</p> <p>ロ. 計算期末の前営業日の基準価額が10,000円以上の場合、原則として、分配対象額の範囲内で、当該基準価額に応じ、下記の金額 (1万円当り) を分配することをめざします。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。</p> <p>(a) 10,000円以上11,000円未満の場合・・・100円                  (b) 11,000円以上12,000円未満の場合・・・200円                  (c) 12,000円以上13,000円未満の場合・・・300円                  (d) 13,000円以上14,000円未満の場合・・・400円                  (e) 14,000円以上の場合・・・500円</p> <p>なお、当該計算期末に向けて基準価額が急激に変動した場合等には、上記の分配を行なわないことがあります。</p>	



# 代表的な資産クラスとの騰落率の比較

(2018年9月～2023年8月)



	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	47.6	42.1	59.8	62.7	5.4	7.9	21.5
平均値	10.0	6.5	14.8	5.6	△0.5	2.9	3.2
最小値	△24.9	△16.0	△12.4	△19.4	△5.5	△6.1	△8.8

上記の図表は、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、過去5年間における年間騰落率（各月末における直近1年間の騰落率）の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示しています。

※各資産クラスは、ファンドの投資対象を表しているものではありません。

※ファンドの年間騰落率は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドの年間騰落率において、過去5年間分のデータが算出できない場合は以下のルールで表示しています。

- ①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。
- ②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しています。
- ③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示します。

※上記の騰落率は直近月末から60カ月さかのぼった算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

※資産クラスについて

日本株……………配当込みTOPIX

先進国株……………MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株……………MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債……………NOMURA-BPI国債

先進国債……………FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債……………J.P. Morgan ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイド（円ベース）

※指数について

●配当込みTOPIXの指数値および同指数にかかる標準または商標は、株式会社J.P.X総研または株式会社J.P.X総研の関連会社（以下「J.P.X」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび同指数にかかる標準または商標に関するすべての権利はJ.P.Xが有します。J.P.Xは、同指数の指数値の算出または公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。●MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.（「MSCI」）が開発した指数です。本ファンドは、MSCIによって保証、推奨、または宣伝されるものではなく、MSCIは本ファンドまたは本ファンドが基づいているインデックスに関していかなる責任を負いません。免責事項全文についてはこちらをご覧ください。（<https://www.daiwa-am.co.jp/specialreport/globalmarket/notice.html>）●NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA-BPI国債の知的財産権とその他一切の権利は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属しています。また、同社は当該指数の正確性、完全性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。●J.P. Morgan ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイドは、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性、正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

（注）海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。



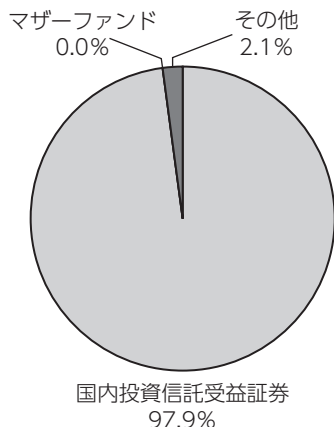
# ファンドデータ

## 当ファンドの組入資産の内容

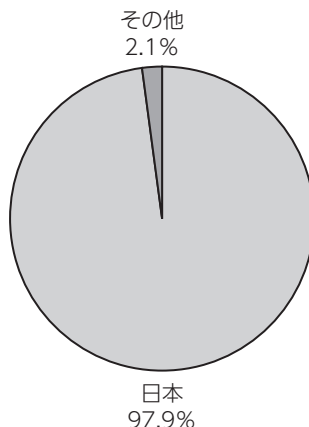
### 組入ファンド等

	比率
ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジなし)	97.9%
ダイワ・マネーストック・マザーファンド	0.0%
その他	2.1%

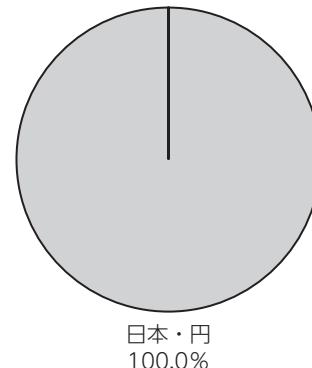
### 資産別配分



### 国別配分



### 通貨別配分



(注1) 上記データは2023年9月13日現在のものです。

(注2) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注3) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

\*当ファンドは、上記組入ファンドを通じて実質的な運用を行っています。次ページの「組入上位ファンドの概要」には、組入上位3ファンドまでのファンドの内容を掲載しています。

## 純資産等

項目	第34期末	第35期末	第36期末	第37期末	第38期末	第39期末
	2023年4月13日	2023年5月15日	2023年6月13日	2023年7月13日	2023年8月14日	2023年9月13日
純資産総額	1,494,910,103円	1,477,569,303円	1,526,049,747円	1,504,387,324円	1,418,653,470円	1,382,700,248円
受益権総口数	1,515,962,209口	1,487,992,177口	1,385,873,746口	1,367,972,819口	1,350,719,870口	1,332,783,602口
1万口当り基準価額	9,861円	9,930円	11,011円	10,997円	10,503円	10,375円

\* 当作成期間 (第34期～第39期) 中における追加設定元本額は86,292,575円、同解約元本額は286,747,049円です。

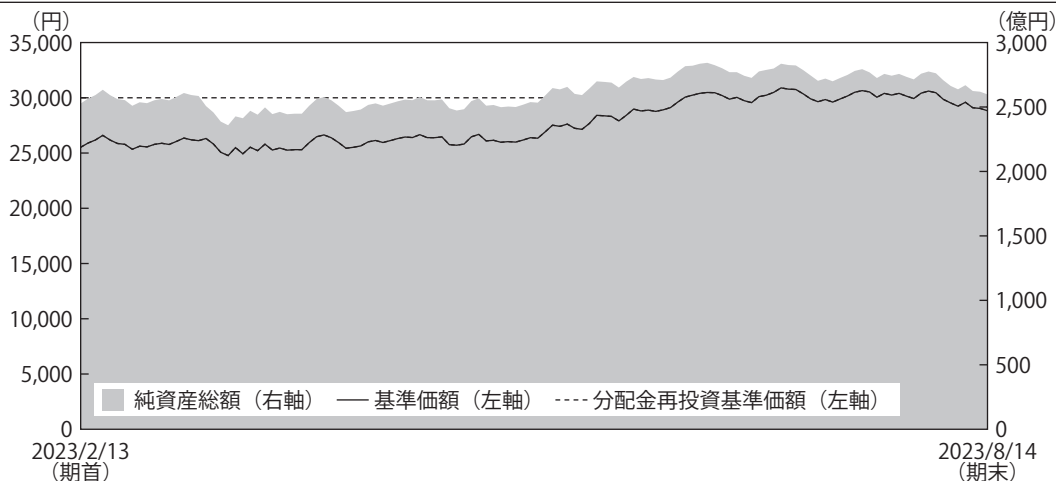
\* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書 (全体版) でご覧いただけます。

## 組入上位ファンドの概要

◆アクサIM・グローバル・ロボット関連株式ファンド(為替ヘッジなし) (適格機関投資家専用)  
 (作成対象期間 2023年2月14日～2023年8月14日)

### ■基準価額等の推移について

(2023年2月14日～2023年8月14日)



期首：25,522円  
 期末：28,828円 (既払分配金(税込み)：0円)  
 騰落率：13.0% (分配金再投資ベース)

## ■ 1万口当たりの費用明細

(2023年2月14日～2023年8月14日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	80円	0.288%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額は27,698円です。
(投 信 会 社)	(76)	(0.274)	投信会社分は、委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	( 1)	(0.003)	販売会社分は、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	( 3)	(0.011)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
売 買 委 託 手 数 料	2	0.006	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株 式)	( 2)	(0.006)	
そ の 他 費 用	2	0.007	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	( 0)	(0.000)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	( 2)	(0.007)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合 計	83	0.301	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

## ■ 当ファンドの組入資産の内容

### 組入ファンド等

(組入銘柄数：1銘柄)

フ ァ ン ド 名	第15期末	
	2023年8月14日	
アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド		100.0%
その他		0.0

(注1) 比率は純資産総額に対する割合です。

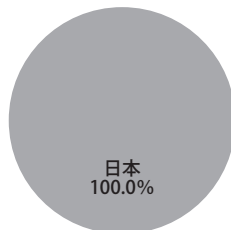
(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注3) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

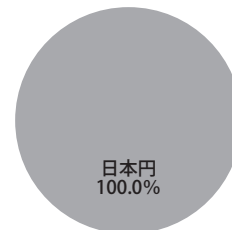
### ◆ 資産別配分



### ◆ 国別配分



### ◆ 通貨別配分

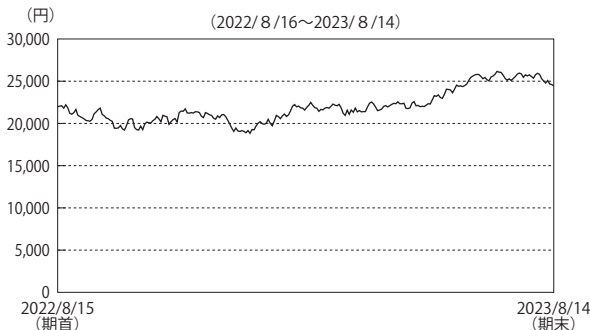


(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

※以下のファンドはアクサ IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジなし) (適格機関投資家専用) が組み入れているファンドです。

**アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド**

【基準価額の推移】



— 基準価額 (左軸)

【1万口当たりの費用明細】

(2022年8月16日～2023年8月14日)

	金額	比率
売買委託手数料 (株式)	3円 (3)	0.011% (0.011)
その他費用 (その他の)	3 (3)	0.013 (0.013)
合計	5	0.025

期中の平均基準価額は、22,010円です。

(注1) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。  
(注2) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

【組入上位10銘柄】

(2023年8月14日現在)

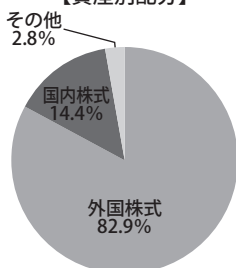
(組入銘柄数：50銘柄)

順位	銘柄名	通貨	比率
1	INTUITIVE SURGICAL INC	米ドル	4.7%
2	NVIDIA CORP	米ドル	4.1%
3	DEXCOM INC	米ドル	3.7%
4	CADENCE DESIGN SYS INC	米ドル	3.5%
5	SIEMENS AG	ユーロ	3.5%
6	キーエンス	日本円	3.3%
7	AMAZON.COM INC.	米ドル	3.3%
8	ALPHABET INC-CL C	米ドル	3.0%
9	THERMO FISHER SCIENTIFIC INC	米ドル	2.7%
10	TERADYNE INC	米ドル	2.5%

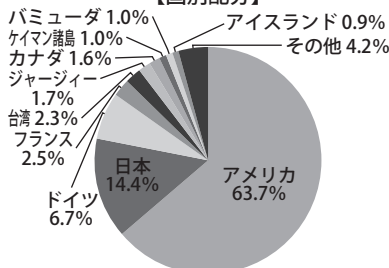
(注1) 比率は、純資産総額に対する割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書 (全体版) に記載しております。

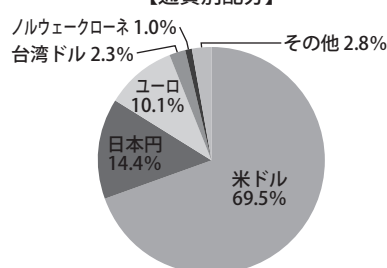
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】

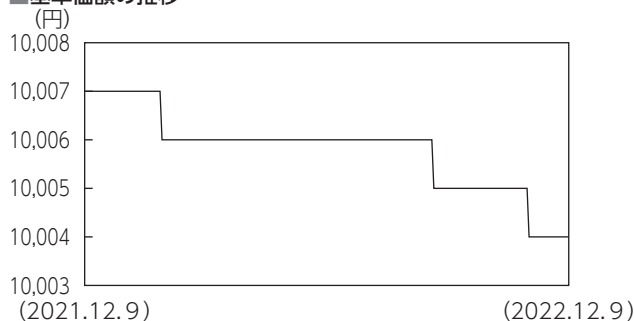


(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

\*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書 (全体版) でご覧いただけます。

◆ダイワ・マネースtock・マザーファンド (作成対象期間 2021年12月10日～2022年12月9日)

■基準価額の推移



■1万口当りの費用の明細

項	目	
売買委託手数料		-円
有価証券取引税		-
その他費用		-
合	計	-

■組入資産

2022年12月9日現在、有価証券等の組み入れはありません。

(注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用の明細は組入ファンドの直近の作成対象期間のものです。

(注2) 1万口当りの費用の明細における費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

費用の項目および算出法については前掲しております項目の概要をご参照ください。また、円未満を四捨五入してあります。

\*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)をご覧ください。